

Title	マーシャル・プランについての史的考察
Sub Title	
Author	小川, 汎子(Ogawa, Eiko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.4 (1969. 3) ,p.124(622)- 124(622)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究発表要旨 彙報
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690300-0126">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690300-0126</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

昭和四十三年十月三十日 於第一會議室

ヘレニズム・ローマ時代のサマリアについて

昭和四十三年十一月十三日 於第一會議室

## 歴史家としてのベーダに関する一考察

テマ削度つひて

六〇 級別に二にて

## イギリス実証主義についての一考察

昭和四十三年十二月二〇日 於五一三番教室

## ヨーロッパの史跡を訪ねて

研究發表要旨

## マーシャル・プランについての史的考察

小川決子

マーシャル・プラン 자체がもつ意味は、直接には第二次大戦後の西欧経済復興に果した役割として評価されるのであるが、これを西欧統合化問題の観点から考えてみるのが課題である。

このマ計画に對して統合化の概念を關係づけさせて いるもの  
は具体的機構としての O E E C の存在である。これは米国により  
復興資金共手の支付合付として設置を要求され、資金受人機構で

復興資金供与の反対給付として設置を要求された資金受入機構であるが、問題はこの機構がその歴史的発展の過程において、ECSC、EECに認めうる経済共同体を準備する母体となつていること、及びこの機構成立の基礎条件が統合機構として米国により始めから要求されている、ということの二点から、OEECとマ

比較文化史—周辺文明の存在

有富英洋

第一次世界大戦以後、文化と文明が歴史研究の主要課題として認識されるようになる。その直接のきっかけは、ドイツの哲学者オスヴァルト・シュペングラーの「西欧の没落」が当時のヨーロッパに異常なセンセーションをまきおこしたことによる。第一次世界大戦がヨーロッパになぜおこつたかを長い歴史の目で見つめ

計画に対する統合概念の付与可能性の確認、及びマ計画を基礎として発展する西欧統合の性格について、当然その米的イニシアチブによる西欧の統合化であること、とが指摘されるという点にあります。そこでこれらの問題点はマ計画当時の米国の政治的経済的事情を分析することを通して明確にされるべきであり、これは特に現実問題としてOEECに対する政治的圧力と、かつ、OEECを通じての米国の輸出経済の成長との二側面においてマ計画にもりこまれた西欧統合化要求への米国の政策的意図を探り出すことが可能である。即ち、統合経済による西欧の再建と米的に再編成された経済市場設定への構想をマ計画の中に認めうるのである。